



## アスペン・ジュニア・セミナー修了報告

**NO.65**

グローバル通信59号でご紹介したアスペン・ジュニア・セミナーに本校から高校2年生の3名が参加し、昨年10月にオリエンテーションを受講し、11月から1月にかけて3回のセミナーが実施されました。修了に当たり生徒から原稿を寄せてもらいましたので、ぜひお目通しいただきその成果を感じ取っていただければ幸いです。ご記憶が薄れている方も多いと思いますのでまずは基本的な所から再確認したいと思います。

### アスペン・ジュニア・セミナーとは？

アスペンとはアメリカコロラド州の地名です。この地に1950年に非営利シンクタンク・教育組織であるアスペン研究所が設立されました。1998年に高い見識を持つリーダーを育成しようと米国アスペン研究所の協力を得て日本アスペン研究所が設立されました。

アスペン・ジュニア・セミナーは「よく生きる」ことを古典に学ぶ、高校2年生を対象にしたリベラル・アーツ・セミナーで、過去10回実施されています。各校から集まった参加者15～20人編成の3クラスで毎月1回の日曜日を使って円卓形式でひたすら対話が進められます。参加者は事前に配布された東西の古典の抜粋を何度も読み込んだ上でセミナーに参加し、議論を深めます。参考までに今回使用されたテキストは以下の通りです。

- 1日目 ソポクレス「アンティゴネー」 森鷗外 「かのように」
- 2日目 旧約聖書「創世記」 福沢諭吉 「文明論之概略」
- 3日目 プロティノス「エネアデス」 カント 「実用的見地における人間学」

このセミナーの素晴らしい所は、モデレーターとして一流の研究者の方々が同席して下さる点です。今回は次のような先生方をご参加下さいました。

村上 陽一郎先生（東京大学 名誉教授） 関根 清三先生（東京大学大学院 名誉教授）  
橋本 典子先生（青山学院女子短期大学 名誉教授） 荻野 弘之先生（上智大学 教授）

## 古典と向き合って

高校2年1組 鎌倉啓伍

アスペンジュニアセミナーは、著名な古典の抜粋を題材とし、20人程度で構成されるグループのメンバーが各自で事前に作品を読んで考えたことについて対話（dialogue）し、読みを深めることを目的とするセミナーです。元々企業の役員向けに始められたものですが、10年前、高校生を対象にしたセミナーを始めたそうです（日本、世界の未来を担う者たちには古典が必要だという考えの下）。

僕は各回で7～8回は発言できるよう準備しました。実際のセミナーでは、自分の考えを他の人が熱心にメモしてくれたのはとても嬉しかったし、また他の人の発言を聞いてなるほどと思ったことも多かったです（ただし、「話す・聞く」のバランスをとるのは難しかったです）。

思い出深いテキストは福沢諭吉『文明論之概略』とカント『実用的見地における人間学』です。前者は唯一学校の古典文法の知識が必要とされるテキストで、最も難解でしたが、江戸から明治への移行で日本が動揺していた時代に、漢学の素養と西洋の学問どちらも併せ持ち、今の時代にも通じる思想を持っている人がいたということに驚きました。後者は「批判三部作」で有名なカントが晩年に記した本で、一般市民向けの講義を基にしているため比較的分かりやすく、カントの哲学の端緒を掴むことが出来ました（「格率」「道徳法則」など、聞き覚えのあるキーワードも登場しました。やはり実際に読むとより実感が湧きます）。

僕のグループのモデレーターは東大名誉教授の村上陽一郎先生で、先生とはたくさんお話が出来ました。先生のご専門は科学哲学（文理どちらでも専攻できる分野の一つ）で、著書は国語の教科書や東大入試問題にも採用されています（僕のクラスの担任の先生も羨ましがっていました）。扱った六つのテキストは古今東西様々ですが、どれに対しても先生自身の専門分野を超えた幅広い知見をお持ちで、今後目標にしていきたい方だと思いました。そのためには、本を読んで色々な人の考え方を知ること。これに尽きます（先生の高中生時代には、“せめて読んだふりくらいしないと恥ずかしい本”はたくさんあったそうです）。

学校のカリキュラム上、残念ながら高校で倫理を学ぶ機会は非常に限られています（グローバルリーダーにこそ倫理は必須だと思うのですが）。しかし、“人生いかにして生きるべきか”というような、直ぐに答えの出ない抽象的な問いを考える時間を設けることは高校生には必要です。今回参加したのは文系の3人のみでしたが、高校1年の「総合社会」の授業を経て倫理に興味を持つ方は多いようなので（特に理系の皆さん）、来年度以降の高校2年生にも、文理問わず是非積極的にこのセミナーに参加してほしいと思います。

## アスペンジュニアセミナーを終えて

高校2年2組 奥山周亮

グローバル通信に二回目の登場の奥山です。正直、自分でももう一回グローバル通信を書くことになるとは思っていませんでしたが少しだけお付き合いください。

さて、アスペンは簡単に言うと『古典』を読むセミナーということなのですが、ここで言う古典というのは古文とは少し違います。古典は世界中で読まれる普遍的な読み物の事を指していて、所謂カントなどの哲学者のモノはもちろん、福沢諭吉やエウリピデスなど広い範囲を指しています。

さてアスペンが古典を読むうえで重要視しているのは『対話』をすることです。

この『対話』の為にアスペンでは一人一人に札が与えられてその札を挙げてモデレーターから指名されなければ発言できません（話を聞かない傾向が強い海城生でも安心！）。他のメンバーと『対話』をしていく中で一人で読んだり、ただの討論をするよりも考えが醸成され、気が付かなかった視点に出会えたりと色々な発見がありました。

さて、ここからは宣伝なのですが、海城から来年も三人参加できるはずですよ。やはり、哲学書をはじめとした『古典』を読む機会は普段は無いし、他校の人と交流する機会を得られるのは大きいです。是非、奮って参加してください！



あるグループのセミナーで

学級閉鎖の関係で本号掲載に間に合わなかった原稿がありますので、そちらにつきましては次号で改めてご紹介します。

## 講演会のお知らせ

グローバル教育部では毎年海外留学、海外大学進学に関する講演会を実施しています。今年は海外協定大学推薦制度(UPAA)ー所定の入学条件を満たした生徒は本校からの推薦により海外協定大学20校への進学が可能となる制度ーを主なテーマとして以下の通り実施します。興味のある生徒諸君、保護者の皆様は振るってご参加下さい。

日時：2月23日(土) 午後1時30分より3時頃まで

場所：本校講堂(1号館3階)

テーマ：本校における高校在学中の留学制度の概略

海外協定大学推薦制度について

- 1 UPAA の制度について
- 2 UPAA で進学する大学の教育制度(アメリカとイギリス)
- 3 海外協定大学 紹介
- 4 海外協定大学出願までの準備

講師：岡崎 行則(本校グローバル教育部)

高橋 新悟 様(UPAA Japan 運営事務局代表)

Bill Veon(ビル・ヴィアン) 様(オレゴン州立大学日本事務所マネージャー)

田口 玲子 様(UPAA Japan 運営事務局)

対象：中1～高2までの生徒及びその保護者

その他：生徒のみ保護者のみのご出席でも結構です。

保護者の皆様は恐れ入りますが、入校章、スリッパ、靴袋をご持参下さい。

資料準備の都合上、事前に参加人数を把握したいと思います。参加希望者は以下に必要な事項を御記入の上、2月16日(土)までに3号館1階グローバル教育部へ直接ご提出下さい。尚、金曜日は常駐する担当者が不在となります。

----- 切 り 取 り -----

2月16日までに3号館1階のグローバル教育部へ直接提出して下さい。金曜日は担当者不在。

2月23日の講演会に参加を希望します。

中学 高校 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 氏名 \_\_\_\_\_

生徒 \_\_\_\_\_名 保護者 \_\_\_\_\_名

事前に何かご質問があればお書き下さい。